

広川町	< 稲むらの火の館 >	第50号	稲むらの火の里
全戸配布	やかただより	H26・6	濱口梧陵生誕地

**東濱口家住宅が
国重要文化財に !!**

5月16日、国の文化審議会は新たに国宝や重要文化財に指定するよう答申されました。

重要文化財の中には、『東濱口家住宅』9棟が含まれています。

この9棟とは主屋、本座敷、等だが、特に「御風楼」と呼ばれるこの写真の木造三階建は、『東濱口家』のシンボリックなものです。



広川町の重要文化財は、広八幡神社、法蔵寺に次ぐ指定となり、たいへんなビッグニュースです。

新聞、テレビでの発表以来『やかた』へも見学等の問い合わせも相次いでいます。

~~~~~  
**稲むらの火の館日記**

「稲むらの火の館」では、『濱口梧陵記念館』の多目的ホールで、津木中学校のホタルの研究の発表をしています。津木中学校の生徒達は長年ホタルの養殖をし、そのための環境問題に取り組んできたそうです。その結果として、ことしも環境大臣賞を受賞したということです。津木中はこれまでも学生科学賞で総理大臣賞を獲得したりと、たいへんな実績をあげています。

「やかた」では今回の話を聞き、多目的ホールでの展示を提案し実現したもので、ホタルシーズンを真近に控えたグッドタイミングな企画であったと自負しています。皆様もこの機会に、この津木中学校の長年の研究をご覧に、お越しく下さい。



又、この多目的ホールは、このような町民の研究や学習発表や、趣味の作品展示などにも活用していただければと、考えています。

お問い合わせは、この「やかただより」の裏面にあるところにご連絡ください。

**「やかた」でテレビの収録が**

5月7日に「やかた」でテレビの収録がありました。南門の所に、テレビ和歌山の中継車がデンと座り、さながらテレビ撮影をしているという景色でした。

西岡町長へのインタビュー番組であったのですが、撮影本番は午後からなのに、朝からコードを張りめぐらせたり、テレビカメラを据え付けたりで、たいへんなことでした。

この番組は、『首長が語る 輝け我が町メッセージ』という番組で、5月25日に放送されました。西岡町長の政策発送の場でもあったが話題の中には、上津木地区で活動されている村おこし、「寄合会」の話題もあり、その会長さんも出演されていました。



**(梧陵さんのエピソード)**

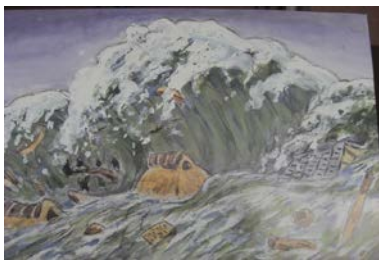
濱口家には、加藤清正が朝鮮より持ち帰った珍しい燈籠があります。(現在、『稲むらの火の館』『濱口梧陵記念館』の前庭にあります。)これは清正が朝鮮より凱旋して、泉州堺に上陸した際、魚問屋の某家に二三日滞在したお礼にその家の主人に遺し置いた幾年か後その家も没落し、この燈籠は和歌山の湯川某の所有になった。その湯川氏もその後次第に衰えて、明治維新後は家屋敷も売り、唯数寄屋一棟を残しただけであった主人は、その中でこの燈籠を眺めるだけが無上の楽しみであった。この燈籠は某外人より千円で譲渡の交渉を受けたが、拒絶したようだ。その頃しばしば濱口家に入出入りしていた園部孫右衛門という人から、この話を聞いた梧陵は、是非この燈籠を貰い受けたいと園部に依頼して先方へ交渉させてところ先方は貰いては梧陵だと聞いて、即座に承諾した。(3年前の7月5日の地震で先端部分が折れたが、いまでも現存している。)

|     |             |       |        |
|-----|-------------|-------|--------|
| 広川町 | < 稲むらの火の館 > | 第50号  | いざという時 |
| 2面  | やかただより      | H26・6 | あなたは!  |

安政元年海嘯の実況

濱口梧陵手記

五日、曇天風なく稍暖を覚え、日光朦朧として所謂花曇りの空を呈すと雖も、海面は別に異状もなかりしかば、前日立退きたる老幼並に婦女は安堵の思いをなし、各々家に帰り自他の無異を喜び、余が住所を訪い前日の労を謝する者相次ぎ、対話に時を移せり。午後村民二名馳せ来り、井水の非常に減少せるを告ぐ。余これに由りて地異の將に起らん事を懼る。果たして七ツ刻頃(午後)4時に至り大振動あり。其の激烈なる事前日の比にあらず。瓦飛び壁崩れ、塀倒れ塵烟空を蓋う。遙に西南の天をのぞめば、黒白の妖雲片々たる間、金光を吐き、恰も異類の者飛行するかと疑わる。暫くにして振動静まりたれ家族の避難を促し、自ら村内を巡視する際、西南洋に当たりて巨砲の連発するが如き響きをなす数回、依って歩を海辺に進め、沖を望めば、潮勢未だ何等の異変を認めず。只西北の天特に暗黒の色を帯び、恰も長堤を築きたるが如し。僅かに心気の安んずる違なく、見る見る天容暗澹、除々肅殺の気天に襲圧するを覚ゆ。ここに於いて心ひそかに唯我独尊の覚悟を定め、壮者を励まし、逃げおくるる者を助け、ともに難を避けしむる一刹那、怒濤早くも民屋を襲うと叫ぶ者あり、余も疾走のうち左の方広川筋を顧みれば、激浪は既に数町の川上に遡り、右方を見れば人家崩れ流るる音凄然として肝を寒からしむ。瞬時に

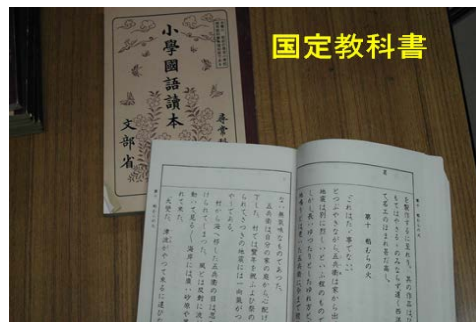


して潮流半身を没し、かつ沈みかつ浮かび、辛うじて一丘陵に漂着し、背後を眺むれば潮勢に押し流さる者あり、或は流

材に身をよせ命を全する者あり、悲惨の状見るに忍びず。一旦八幡境内に退き見れば、幸いに難を避けてここに集まる老若男女、今や悲鳴の声をあげて親を尋ね、子を捜し、兄弟相呼び、宛も鼎の沸くが如し。各自につきこれを慰むるの違なく、ただ「我れ助かりてここに在り、衆みなまさに心を安んずべし」と、大声に連呼し、去って家族の避難所に至り身の全きを告ぐ。そうそう辞して再び八幡鳥居際に来る頃日全く暮れたり。ここに於いて松火を焚き壯者十余人にこれを持たしめ、田野の往路に下り、流家の梁柱散乱の中を越え、行くゆく助命者数名に遇りなお進まんとするに流材道を塞ぎ歩行自由ならず。(つづく)

< お客様の声 >

- ① (記念館に展示中の津木中学校によるホテル保護活動のパネルを見て)  
これは地元の中学生在が率先してホテルの保護活動をしているという事ですか。  
なんと素晴らしいことですね。  
大阪の中学生にも見習ってもらいたいものです。  
<大阪からお越しの女性>
- ② 小学生の時に『稲むらの火』を勉強したのを思い出しました。(『稲むらの火』のコピー資料を手にして)帰って、もう一度ゆっくり読ませていただきます。そして、友達にも見せてあげます。  
<湯浅町からお越しの女性>



- ③ (ガイダンスが終了して) これまで『稲むらの火』は、お米のついたものに火をつけたと思っていたのですが、違うのですか。(安政の南海地震は11月5日と説明していますが、新暦では12月24日ですので、と説明したところ)  
ああそうですか、12月24日では米はついていないですね。納得しました。  
(団体で来られた男性)

< 稲むらの火の館の紹介 >

濱口梧陵記念館／津波防災教育センター  
〒643-0071 住所 広川町広671

TEL : 0737-64-1760 / FAX : 0737-64-1761

<http://www.town.hirogawa.wakayama.jp/inamurano-hi/>

\*開館時間：午前10時～午後5時(受付終了4時)

\*休館日：月曜日・火曜日(祝日開館)

年末年始(12/29-1/4)

\*記念館だけの入場は無料です。